

# 国際科科目「Global Studies」の開発と実践

地理歴史科 今野 良祐

本校は、2008年に国際教育推進委員会を設置して以来、国際教育の全学校的な展開を目指して様々な取り組みに注力してきた。なかでも2012年からの新学習指導要領の実施に際して大幅な教育課程の改編を契機に、国際教育の本格化を目的に学校設定教科「国際科」を立ち上げた。本稿では「国際科」設立初期の4科目のうち、3年次一般選択科目の「Global Studies」の科目開発とその実践（2013～2015年度）について報告する。

キーワード 国際教育 ESD Global Studies アクティブ・ラーニング グローバル人材

## 1. はじめに

本校は、2008年に打ち出された筑波大学附属学校の3つの教育拠点構想を受けて、特に国際教育に力を入れて取り組んできた。こうした取り組みをさらに発展させるため2011年3月にはユネスコスクールに加盟し、「総合学科の特色を生かした多角的アプローチによるESDの推進」をテーマとして総合学科教育と親和性の高いESDの実践に取り組み始めた。また、2014年より文部科学省スーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)に指定され、本校がこれまで取り組んできた国際教育・ESD実践がさらなる加速を遂げる契機となった。

とはいえ、初期の国際教育の実態は特定の時期に特定の生徒のみが享受できる国際教育の側面があったことは否定できない。海外校外学習(修学旅行)で海外に渡航したり、海外からの留学生を受け入れたり、国際的な取り組みは行われてきたものの、その取り組み自体やそこでの学びが持続しない単発的なイベントと化している側面があった。そこで求められたのは、日常における国際性の涵養、すなわち授業における国際教育の本格化であった。2009年3月の新学習指導要領の告示を受けて、2011年度入学生より1年前倒して新課程を実施することとし、教育課程の大幅な見直しを行った。そして、新課程では学校設定教科として国際科を設置し、4つの科目を開発することになった。すなわち、2年次(2012年度から)科目群選択科目「国際社会」、2年次一般選択科目「Discussion & Debate」、3年次(2013年度から)一般選択科目「比較文化論」、「Global Studies」の4つである。これらの科目は基本的に誰でも自由に選択できる科目として配置しており、様々な専門分野を学ぶ生徒が選択してくることを期待している。そして多面的・多角的な視

野からの学習活動を提供し、本校のESDや国際教育の推進に教科としても貢献していこうとしている。現在では新たな開発科目や「インドネシア語」、「国際フィールドワーク」などの時間割外科目なども含めて国際科として10科目以上を開設している。

本稿では、国際科設立初期の4科目のうち、「Global Studies」の科目開発とその実践(2013～2015年度)について報告する。なお、「国際社会」、「Discussion & Debate」については、工藤・塗田(2013)、工藤(2014)にてすでに科目開発・実践報告がなされているので参照されたい。

## 2. 「Global Studies」の授業設計

本科目での単元構成は、拙稿(今野2012)で報告した「地理A」での単元開発の成果を取り入れ、世界の現状の理解や問題構造の把握にとどまらず、その改善・解決に向けての具体的なアクション(行動化)までプロセスに組み込むなどの工夫をしている。

授業の内容(主題)は、先述の「地理A」で先取りして取り組んだ内容に加えてESDの諸側面としての開発教育やグローバル教育の側面を大きく反映させた内容とした。いわゆる地球的課題やグローバルイシューなど持続可能な開発や持続可能な社会づくりに関する事象に焦点をあてて、学習方法においても開発教育で多用されている参加型学習を多く取り入れた。基本的に授業は2時間で1テーマが完結するように展開して、授業内容に関する小レポートを毎時間執筆させて次時まで提出させる。レポートの内容は、授業者がとりまとめて次時の授業の冒頭においてクラス全体で共有し、新しい学習テーマへの橋渡しとしている。2013年度から2015年度までの3年間の年間授業計画を表1～3に示した。

表1 2013 Global Studies 年間授業計画

	月日	主題	邦題	使用教材・手法
一学期	1	4/16(火) How to study GS? / General aspects of the global issues	ガイダンス、国際問題キーワード	メンタルマップ、世界地図(ミラー図法)
	2	4/23(火) The biggest class in the world	「世界 大きな授業」	
	3	5/7(火) The trade game	「貿易ゲーム」から考える南北問題	貿易ゲーム、はさみ、紙、クリップ、コンパス
	4	5/14(火) If the world were a village of 100 people	「世界がもし100人の村だったら」	「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」
	5	5/21(火) How do we understand about the world?	世界を正しく理解・表現する?	ミニ地球儀の作成、ピーターズマップ
	6	5/28(火) The area difference from the statistics	統計地図から貧困の地域差を読む	主題図作成、白地図、統計データ、色鉛筆
	7	6/4(火) Case study from the story : Poverty and Development	ナナさん一家の一日から考える貧困と開発	ローブレイ、ブレインストーミング、ウェブリンク
	8	6/11(火) Discussion: Poverty and Development	よりよい社会づくりのための「開発」を考える	グイメント・ランキング、ディスカッション
	9	6/18(火) The structure of Disempowerment and Development	MDGs、(国)開発目標、目標1: 貧困削減、MDGs2015、SDGsの発展	「End Poverty, MDGs2015...」ウェブリンクのレビュー
	10	6/25(火) The power of Clothings UNIQLO×UNHCR「服のチカラ」	「服のチカラ」プロジェクト出前講義	
	11	7/2(火) How to Act & Summary of 1st term	「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」 or 「拓殖大学高校生・留学生作文コンクール」	
	12	7/9(火) 1st term test: Essay contest for JICA or others	「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」 or 「拓殖大学高校生・留学生作文コンクール」	
二学期	13	9/3(火) The power of Clothings UNIQLO×UNHCR「服のチカラ」	「服のチカラ」P 回収衣料仕分け・発送作業	-
	14	9/10(火) Consider that factor of Unsustainable society	持続可能な社会づくりを阻害している要因	グループワーク、ふせん、模造紙
	15	9/17(火) What should we do for Sustainable society ?	持続可能な社会づくりのために高校生にできること	グループワーク、ふせん、模造紙、ポスター発表
	16	10/8(火) What should we do for Sustainable society ?	持続可能な社会づくりのために高校生にできること	グループワーク、ふせん、模造紙、ポスター発表
	17	10/15(火) <院生授業> The poverty problem in Philippines	貧困の悪循環と地域性	グループワーク、ふせん、模造紙、ポスター発表
	18	10/22(火) ESD symposium pre event: Discussion	持続可能な社会づくりのために高校生にできること	ポスター発表、ディスカッション
	19	10/29(火) Stand Up Take Action!	Stand Up Take Action!	Stand Up Take Action!
	20	11/5(火) The energy problem	エネルギー問題を考える	「原子力コンセンサス」、発電ランキング
	21	11/12(火) 3D debate ~Which Electric Power Generation is the best?~	よりよい発電方法を考える: 3Dディベート	3Dディベート
	22	11/19(火) palm oil ~what's the meaning of good for the earth~	パーム油: 地球にやさしいって何だろう?	「パーム油の話」ピクチャーランゲージ、ウェブリンク
	23	12/3(火) 2nd term final report / perfect in meal	-	-
三学期	24	12/10(火) The HYOTAN Island problem	「ひょうたん島問題」から考える多文化共生	「ひょうたん島問題」、ローブレイ、ランキング
	25	12/17(火) Environmental problem in pictures	世界の環境問題を写真から考えてみよう	ピクチャーランゲージ、世界各地の写真
	26	1/14(火) "Rice" ~The Commons of Japanese people~	日本人のcommons「お米」を考える	DVD「お米が食べられなくなる日」
	27	1/21(火) "Sanuki-UDON" ~The local traditional food~	「さぬきうどん」から考える地域と世界	映画「UDON」、映像「さぬきうどんに迫る危機」
	28	1/28(火) 3rd period final test	-	-

表2 2014 Global Studies 年間授業計画

	月日	主題	邦題	使用教材・手法
一学期	1	4/14(月) How to study GS?	ガイダンス、国際問題キーワード	メンタルマップ、世界地図(ミラー図法)
	2	4/21(月) The biggest class in the world	「世界 大きな授業2014」	
	3	4/28(月) How do we understand about the world?	世界を正しく理解・表現する?	ミニ地球儀の作成、ピーターズマップ
	4	5/12(月) The area difference from the statistics	統計地図から貧困の地域差を読む	主題図作成、白地図、統計データ、色鉛筆
	5	5/19(月) If the world were a village of 100 people	「世界がもし100人の村だったら」	「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」
	6	5/26(月) The trade game	「貿易ゲーム」から考える南北問題	貿易ゲーム、はさみ、紙、クリップ、コンパス
	7	6/2(月) Case study from the story : Poverty and Development	「ルイスの死」から考える貧困と開発	ブレインストーミング、ウェブリンク、動画「ライズ」
	8	6/9(月) Discussion: Poverty and Development	ディスカッション「開発」を考える	グイメント・ランキング、ディスカッション、MDGs、SDGs
	9	6/16(月) Design for new international contribution by students	高校生だからできる、新しい国際貢献のデザイン	ブレインストーミング
	10	6/23(月) How to Act & Summary of 1st period	「服のチカラ」プロジェクト自費発表、1学期のまとめ	ディスカッション
	11	6/26(木) The power of Clothings UNIQLO×UNHCR「服のチカラ」	「服のチカラ」プロジェクト出前講義	講義
	12	7/9(火) 1st term test: Essay contest for JICA or others	「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」	
二学期	13	9/1(月) The power of Clothings UNIQLO×UNHCR「服のチカラ」	「服のチカラ」P 回収衣料仕分け・発送作業	-
	14	9/8(月) What's the factor of "Global human resource"?	グローバル人材について	講義
	15	9/22(月) Stand Up Take Action!	Stand Up Take Action!	Stand Up Take Action!
	16	9/29(月) "Sanuki-UDON" ~The local traditional food~	「さぬきうどん」から考える地域と世界	映画「UDON」、映像「さぬきうどんに迫る危機」
	17	10/6(月) Watching the UDON movie due to Typhoon	-	-
	18	10/20(月) "Rice" ~The Commons of Japanese people~	日本人のcommons「お米」を考える	DVD「お米が食べられなくなる日」
	19	10/27(月) Consider that factor of food problem	持続可能な社会づくりを阻害している要因	グループワーク、ふせん、模造紙
	20	10/31(金) What should we do for Sustainable society ?	持続可能な社会づくりのために高校生にできること	グループワーク、ふせん、模造紙、ポスター発表
	21	11/10(月) ESD symposium pre event: Discussion	持続可能な社会づくりのために高校生にできること	ポスター発表、ディスカッション
	22	12/1(月) ESD symposium pre event: Discussion Review	持続可能な社会づくりのために高校生にできること	ポスター発表、ディスカッション
	23	12/8(月) 2nd term final report / perfect in meal	-	-
三学期	24	12/15(月) Hijab ~Coexistence of multiculturalism~	「ヒジャブ」から考える多文化共生	DVD「ヒジャブ」
	25	12/22(月) The HYOTAN Island problem	「ひょうたん島問題」から考える多文化共生	「ひょうたん島問題」、ローブレイ、ランキング
	26	1/19(月) Crisis in our Commons / Between the world and myself	共有財産の危機、私と世界のつながりを考える	「ひょうたん島問題」、DVD「トレランス: 命の度合い」
	27	1/26(月) Revenge! The trade game for everyone's happiness	「貿易ゲーム」から考える南北問題	貿易ゲーム、はさみ、紙、クリップ、コンパス
	28	1/27(火) 3rd period final test	-	-

表3 2015 Global Studies 年間授業計画

	月日	主題	邦題	使用教材・手法	
一学期	1	4/20(月)	How to study GS?	ガイダンス、メンタルマップ	メンタルマップ、世界地図(ミラー図法)
	2	4/27(月)	The biggest lesson in the world	「世界・大きな授業2015」	「世界・大きな授業2015」
	3	5/11(月)	If the world were a village of 100 people	「世界がもし100人の村だったら」	「リマージュ」版「世界がもし100人の村だったら」
	4	5/18(月)	The trade game	「貿易ゲーム」から考える南北問題	貿易ゲーム、はさみ、紙、クリップ、コンパス
	5	5/25(月)	Case study from the story: Mr. Nana's family	ナナさん一家の一日から考える貧困と開発	ロープ、レイ、ブレインストーミング、ウェブページ
	6	6/1(月)	Case study from the story: Poverty and Development	「ルイスの死」から考える貧困と開発	ブレインストーミング、ウェブページ、カード
	7	6/8(月)	Discussion: Poverty and Development	ディスカッション「開発」を考える	ディスカッション、MDGs、SDGs
	8	6/15(月)	What should we do for sustainable development	高校生だからこその持続可能な社会づくりのプロジェクト	ブレインストーミング、かけ合わせ
	9	6/22(月)	My world 2015 / Convention on the Rights of the Child	高校生だからこその持続可能な社会づくりのプロジェクト	My world 2015
	10	6/29(月)	one minute video & Summary of 1st period	1学期のまとめ	one minute video
	11	7/6(月)	1st term test: Essay contest for JICA or others	「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」	
二学期	12	9/4(金)	What's the factor of "Global human resource"?	グローバル人材について	講義
	13	9/7(月)	Hijab ~Coexistence of multicultural~	「ヒジャブ」から考える多文化共生	DVD「ヒジャブ」
	14	9/28(月)	The HYOTAN Island problem	「ひょうたん島問題」から考える多文化共生	「ひょうたん島問題」、ロープ、レイ、ウェブページ
	15	10/5(月)	Crisis in our Commons / The World Food Day 2015	共有財産の危機/世界食糧デー2015	「ひょうたん島問題」、世界食糧デー
	16	10/19(月)	Why the starvation has been continued in Africa?	アフリカ飢餓の要因	フォトランゲージ、グループディスカッション
	17	10/26(月)	"Sanuki-UDON" ~The local traditional food~	「さぬきうどん」から考える地域と世界	映画「UDON」、映像「さぬきうどんに迫る危機」
	18	10/30(金)	"Rice" ~The Commons of Japanese people~	日本人のcommons「お米」を考える	DVD「お米が食べられなくなる日」
	19	11/2(月)	Where are Our Foods & Water from?	私たちの水と食料はどこから来ている?	グループワーク、スーパーのチラシ、世界地図
	20	11/9(月)	What should we do for our food sustainability?	食環境の持続可能性を考える	グループディスカッション、映像作成
		11/18-19	ESD symposium	-	-
三学期	21	12/7(月)	Meeting about Food sustainability / One postcard for all smile	-	-
	22	12/14(月)	Food sustainability / Making Promotion Video	持続可能な食環境PV作成	グループワーク、映像作成
	23	12/21(月)	Food sustainability / Making Promotion Video	持続可能な食環境PV作成	グループワーク、映像作成
	24	1/18(月)	No class due to heavy snow!	-	-
	25	1/25(月)	Watching Promotion Video /3rd period final test	-	-

年によって若干の変動はあるものの、概ね図1のような単元構成をとっている。1学期に既成の開発教育教材を利用して、世界全体を見渡して現状を理解することに努め、学期末に JICA 中学生・高校生エッセイコンテストなどの小論文執筆に取組ませた。また、2学期以降は、いくつかの身近な事象や事例を取り上げ、他人事では済まされない様々な問題に対し、どのように対応したらよいかを考えた。頭のなかで教科書通りの正解を思い描くだけでは、現状は何も変わらない。服のチカラプロジェクト(ユニクロ)や世界寺子屋運動(ユニセフ協会連盟)、本校主催で毎年開催している「高校生国際 ESD シンポジウム」(本校主催)に際して、授業内での学習成果を海外から招聘した高校生にプレゼンテーションをするなど、授業内で実際にいくつかのアクションに取組んだ。

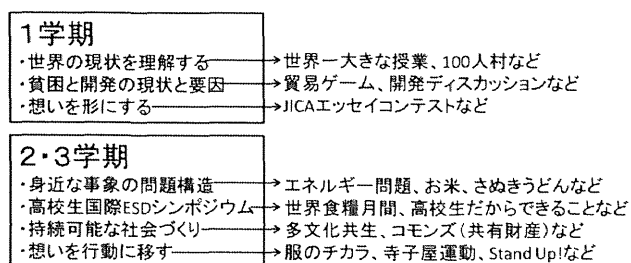


図1 Global Studies の単元構成の概要

### 3. 取り組みの実際

授業では基本的に日本語(説明・レポート)を使用するが、国際科の授業であるので授業タイトルやワークシートの指示文などは英語で記載した。レポートについて、英語で解答したものについては若干の加点をした。秋に行われる ESD シンポジウムに際して、海外から招聘した高校生との交流授業が予定されているので、少しでも英語に関する苦手意識を払しょくさせたいねらいがあった。

各授業の様子について、2014年度の取組みをベースに写真やワークシートをまじえて概略を示す。

#### <1> How to study GS?>

授業の冒頭は「グローバル(何でも)バスケット」から始めて出席確認を兼ねる。円形に座り、英語で出されたお題への該当者が席を移動するものである。その後、科目概要を説明してメンタルマップを書いてもらう。

#### <2> The biggest lesson in the world >

世界同時期実施イベントである「世界一大きな授業」(教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)主催)に参加する。非識字の不利益の体験的理解の予算配分のワークを通して、教育の重要性を再認識する。最後に政府への要望書を執筆する。

### <3 How do we understand about the world?>

初回授業で書いてもらったメンタルマップと世界地図のギャップがあり、世界の地理的認識を深めていく必要があるが、世界地図と現実世界（地球）との間にもギャップがあり、その要因をミニ地球儀づくりを通して理解する。最後に高緯度が拡大されるメルカトル図法を批判してつくられたピータース図法の作者の意図を考える。

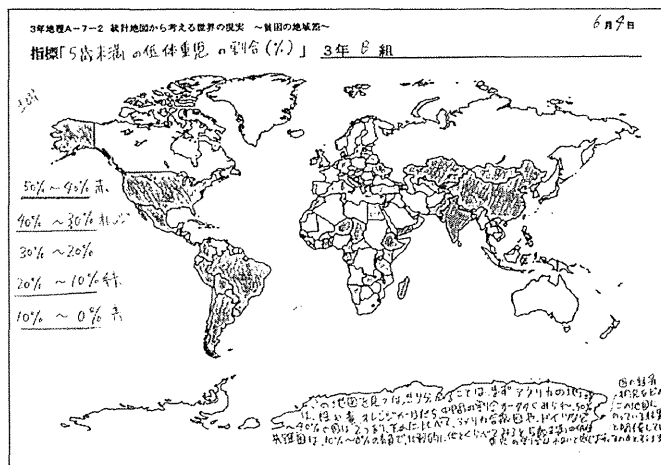


### <4 If the world were a village of 100 people >

「ワークショップ版世界がもし 100 人の村だったら」(2003 年、開発教育協会) を用いて世界の現状の体験的に理解する。その後、本文を輪読して、読後の気持ちをレポート執筆する。その多くが「驚いた」「かわいそう」「なんとかしたい」というものであった。

### <5 The area difference from the statistics >

前時の 100 人村のワークを受けて、想像を上回る規模の貧困や格差があることが確認された。そこでどのような貧困の状態がどこで生じているのかを視覚的に確認するために総務省統計局『世界の統計』の「開発途上国の社会・環境指標」を用いて主題図（統計地図）の作成を行った。アフリカなどの低緯度に位置する途上国に貧困の状態が集中している様子が確認できた。



### <6 The trading game >

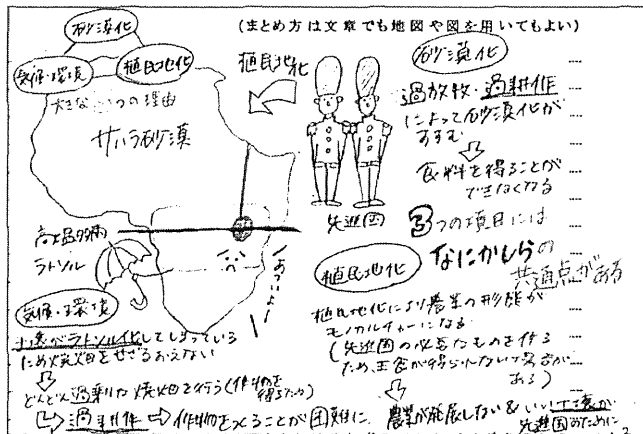
前時まで学習してきた貧困について、私たちもその要因にもなりうることを示唆したうえで「貿易ゲーム」(2002 年、開発教育協会) に取り組む。ゲームはグループごとに配られた道具を使って、製品をつくり、マーケットで販売してお金を稼ぐというシンプルなものである。「お金を一番稼いだグループが勝ちです。頑張ってください」のフレーズでゲームが始まるが、技術（ハサミ）と資源（紙）の両方を持っているグループは順調に作業を進めるが、資源のみがたくさんあるグループや何もないグループはどうしたらよいかわからない。そんな様子を見計らって、「このゲームの名前は貿易ゲームです」と確認すると、グループ間での交渉・貿易が始まってゆく。ゲームの途中で国際機関役の授業者より、技術支援（1分間のハサミの貸し出し）や新たな資源の開発（紙の追加）、特定のグループに有利になるような取決めを行う国際会議などのイベントが挿入される。ゲームは、予定調和的に先進国を模したグループが圧倒的な勝利をおさめた。また、彼らが途上国を模したグループを支援することではなく、ただ資源を搾取する様子が見られた。

本ゲームを通して世界の貿易の現状を体験的に理解するとともに、貧困国の支援に踏み出せなかった生徒からは 100 人村のレポート時に述べた「なんとかしたい」という気持ちがきれいごとであったことに気づかされたようだ。この授業の当初から説いていた「教科書的な正解を述べるだけでは世の中は変わらない」ということを身を持って痛感した生徒が多かったようだ。



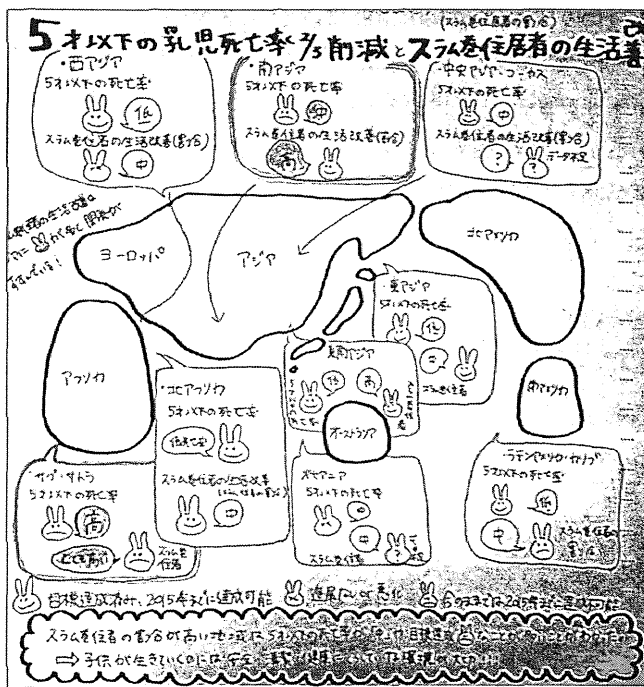
### <7 Case study from the story : Poverty and Development >

「MDGs ってなに? ~世界のためにわたしができること~MDGs ワークショップ実施マニュアル」(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) 世界の「貧しい」を半分にする。MDGs2015 キャンペーン事務局) 掲載のストーリー「ナナさん一家の一日」「少年ルイスの死」を読み解いて貧困の要因を分析した。



<8 Discussion: Poverty and Development>

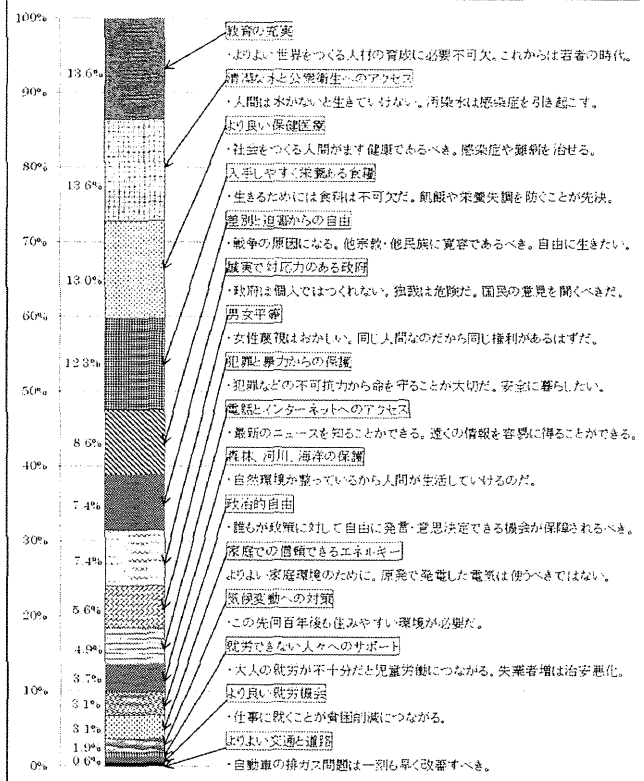
前時の貧困事例の分析を受けて、貧困を克服するための開発の視点として A 経済、B 環境、C 意思決定、D ネットワーク、E 健康、F ゆとり・安心、G 教育、H 文化・多様性、I 政府の 9 つを提示した。これらを最も優先すべき事項としてダイヤモンドランキング (参考: 「貧困と開発～豊かさへのエンパワメント」2005 年、開発教育協会) でまとめたものをレポート課題とした。本時ではダイヤモンドランキングの指標ごとに分かれて、開発で優先すべき事項は何かというお題で受講者全員でディスカッションに取り組んだ。議論は、どの指標が一番優先すべきかというところから始まり、次第に各指標が関連し合っていることや包含する概念であるなど複眼的に開発を考えていかなければならないという方向に議論が向かっていく。議論のまとめとして、特定分野の開発だけに注力してきたことで、他の側面に歪を生んできたこれまでの歴史の反省から、経済開発・環境開発の両立だけでなく、人間開発や社会開発など様々な側面についても総合的な観点から持続可能な開発に取り組むことが必要な時代であることを確認した。また、国連ミレニアム開発目標 (MDGs) や持続可能な開発目標 (SDGs) を紹介して、2015 年までに達成すべき開発目標の達成地域差について分析することをレポート課題とした。2015 年は世界的取組みである My World 2015 に参加した。



2013Global Studies 7-7 Opinions

My World 2015 -Global survey for a better world-

Step1 My World サイトにアクセスし、「よりよい世界 (持続可能な社会) をつくる」ために優先すべきことを 6 つ選択し、投票する。6 つを選んだ理由を簡潔に述べよ。みんなの投票結果は以下の通り



<9 Design for new international contribution by students>

株式会社 a.school の岩田拓真氏を講師として招へいして (2014 年度のみ) 特別授業を行った。高校生が得意なこと・好きなことと世界の困りごと (問題) のかけ合わせによって高校生ならではの発想による国際貢献アイデアの創出に取り組んだ。

<10 The power of Clothings UNIQLO×UNHCR>

ユニクロ「届けよう！服のチカラプロジェクト」は、不要になった子ども服を回収して、難民キャンプの子どもたちに届ける国際協力プログラムである。難民問題などのプロジェクトの背景や前年度のプロジェクトの成果などをユニクロ社員による出張授業で確認したあとで、どのように校内でプロジェクトを進めていくかを話し合った。プロジェクト実施の7~9月中の役割分担を決め、回収ボックスの作成と昇降口への設置、1 学期終業式での回収告知、近隣小学校への協力依頼、学校説明会での中学生への協力依頼、9 月の文化祭での回収ボックスの設置などに取り組んだ。

<11 1st term test; Essay contest for JICA or others>

1 学期の学習成果を「JICA 国際協力エッセイコンテスト」の1600 字以内のエッセイ（小論文）にまとめることを1 学期末考査の代替とした。

<12 The power of Clothings UNIQLO×UNHCR>

2 学期の始まりは、夏休みにかけて集まった子ども服の発送作業に取り組んだ。約2000 着以上集まった服で体育館はいっぱいになった。



<13 What's the factor of "Global human resource"?>

昨今、その重要性が高まっているグローバル人材について、その定義を考えるとともにそのような人材になるためのアクションプランを考えた。

<14 Stand Up Take Action!>

貧困をなくすために立ち上がるスタンドアップキャンペーン「世界的アクション” Stand Up Take Action!」（動く→動かす主催）に校内参加して、前時で考えたアクションプランを書いたフリップを掲げて立ち上がる。



<15 The World Food Day/

“Sanuki-UDON” ~The local traditional food~>

10 月は「世界食料デー月間」として、日常の食生活から世界の食問題を考える様々な活動が行われる。本科目では、食環境をめぐるいくつかの問題を取り上げたのち、「食」を主題とした本校主催の高校生国際 ESD シンポジウムに際して交流授業に取り組んだ。

まずは、さぬきうどんを事例として取り上げた。さぬきうどんは、原料の小麦や出汁に用いるイリコや醤油などは瀬戸内地域に産地を持ち、地域の産物を利用した古くから地域に愛されてきた郷土料理の1つである。瀬戸大橋開通やメディアでの宣伝なども手伝って幾度となくうどんブームが到来した一方で、さぬきうどんを支える不安定で脆弱な産業基盤や過剰なブームによる負の側面などを素材として持続可能な開発を考える単元とした。

<16 “Rice” ~The Commons of Japanese people~>

日本に限らずアジアの主食である「お米」にスポットをあてる。授業者も製作に関わった「お米が食べられなくなる日」（2011 年、アジア太平洋資料センター（PARC））を教材として、日本の米づくりが危機に瀕している現状と要因の分析、1993 年に日本を冷夏に見舞われた際にお米の貿易をめぐる生じた問題などを取り上げ、私たちの主食であるお米の持続可能性について議論した。



## <22 The HYOTAN Island problem>

前時のヒジャブの事例を受けて、ロールプレイを通じて具体的な問題としてとらえることを目指した。藤原孝章著『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」～多文化共生社会ニッポンの学習課題』（2008年、明石書店）所収の「ひょうたん教育の危機」（ニューカマーの教育問題）と「ひょうたんパワーの消滅」（共有財産の危機）のワークに取り組んだ。

## <23 Between the world and myself>

1年間のGlobal Studiesの学びの締めくくりは、本科目の大きなテーマである“私と世界のつながり”を改めて考えることとした。教材は先述の「私と世界」所収の「トレランス」と「命の度合い」の2つの映像を取り上げた。「トレランス」は、原始人が文明を築き上げていくなかで争いに発展していく短いフィクション映像であるが、そのなかにエゴ、コミュニケーション、ライバル意識、本能などのキーワードが見出される作品である。視聴前に「映像に出てくる2人はなぜ戦うことになったのだろうか?」と問いかけをし、視聴後に生徒に意見を出してもらった。また、「命の度合い」は、自己中心的な行動の末路や自然と人間の関係について多くの示唆を与えてくれる作品である。こちらは映像を視聴後に「あなたはこの映像からどのようなメッセージを受け取ったか」と発問し、生徒からの意見を教室全体で共有する。ともに発問に対する正解は存在せず、生徒各人の自由な発想を期待した。そして2つの映像を視聴後に「2つの映像に共通するメッセージは何だろうか」と問いかけてレポートにまとめることを最後のレポート課題とした。1年間の授業で一貫してきた授業の理念を踏まえながらの発言や作品に込められたメッセージとは異なる意見を持った生徒も発言してくれて、事物に対して多様な見方・考え方が存在することを改めて確認することができた。しかしそのような状況下でもコンセンサス（合意形成）をしていかなければならないことを補足し、そのためには様々な事物を総合学科で学んできたように多角的な視点から学び続ける必要があることを最後に授業者の方で助言して、卒業を間近に控えた生徒たちへのエールとして授業を締めくくった。

## 4. 3年間の開発実践の総括

本科目では、①広く国際情勢を理解すること、②国際的な課題について考えたり、議論すること、③最後にそれらをふまえて持続可能な社会の実現に向けて行動する

ことを目標に掲げて、国内外の様々な事象を取り上げて授業に取り組んできた。

①については、世界史的な国際情勢の学習というよりは、南北格差・貧困・構造的暴力・持続可能な開発といった概念的なものから、さぬきうどん、お米、エネルギー問題といった身近な話題まで取り上げて、広い視野から私たちの住む世界を捉えることを目指してきた。②については、手法として参加型学習を多様して、生徒自身による授業の題材の分析・思考・表現の機会を多く設定した。また、前時のレポートの内容を次時の内容への橋渡しとすることで、次の学習内容への意見や概念を持った状態で授業に臨むことができるので、主体的に授業に参加しやすい態度を形成することができる。したがって、手法としてのアクティブ・ラーニングの側面と学習者自身が主体的・能動的（アクティブ）に学習（ラーニング）に取り組めるような環境づくりを毎時間心がけた。③については、国際問題について学習する生徒の傾向として「教科書的な正答を述べるだけで済ませてしまう」ことや「実現可能性や現実を無視して論理的に正しい解決策を提示する」という知識偏重型の学習に終始してしまうことに授業者として頭を悩ませていた。どうしても遠い世界の話と片付けがちであるが、間接的にも直接的にも私たちが関与している問題は多くあり、他人事や傍観者では済まされないはずである。しかし、問題に対して解決に貢献したいがどのようなアクションを起こせばよいか分からないという声も聴かれる。そこで本科目では、“想いを形にする機会”として毎時間のレポート課題のほか、「JICA エッセイコンテスト」や「開発援助標語コンテスト」などの外部団体主催のコンテストなどを積極的に活用した。また、“想いを行動に移す機会”として「服のチカラプロジェクト」など既成のプログラムに授業として参加して、実際にアクションを起こすことを体験してもらった。生徒たちは身近なところからできる国際協力に携わって若干の達成感を味わうとともに、こうした活動を通じて問題の存在を広く理解してもらうこと、そしてそれらの解決に向けて共に行動する仲間を集めることの重要性和難しさに気づいたようだ。少なくとも次に自主的にアクションを起こすためのハードルは低くなっているはずである。幸いなことにGlobal Studiesの受講生による自主的なアクションがいくつか行われた。たとえば、2013年にフィリピンのレイテ島を直撃した台風被害の「義捐金集め」、フリー・ザ・チルドレンの「サイレント・キャンペーン（沈黙の誓い募金）」、国際NGOプラン・ジャパンが展開している「because I am a girl!」、



おにぎりを食べてアフリカの子どもたちに給食を届ける「Table For Two」への参加などがあつた。



最後に、授業アンケートの集計結果について考察する。2013年度と2014年度は、各授業内容について、4：とてもよい、3：よい、2：よくない、1：無理の4件法で解答してもらった(表4参照)。全体的に既成の開発教育教材の授業には肯定回答が多く集まっている。なかでも「貿易ゲーム」は2013年度、2014年度ともに人気の授業であった。ハサミなどを使って製品を作り、それら売って音金を稼ぐというシンプルなゲームであるが、資源などの一次産品が安価に流通している様子や先進国有利の貿易協定など、実によく世界の貿易の様子を再現している。また、最もお金を稼いだグループが勝ちというゲーム性を取り入れていることで、貧困にあえいでいるグループを見捨て、交渉の窓口を閉ざしてしまうなど先進国を模したグループの本性が垣間見える。そして、ゲーム終了後のふりかえりでゲーム内で生じた現象が現実世界で起きており、私たちもそれに加担していることを知った生徒はこの単元を境に一気に世界の見方が変わるようである。一方で、「JICA エッセイコンテスト」や「シンポジウム交流授業でのポスタープレゼンテーションの準備」などアウトプットが課されているものについ

ては、評価が低い。「考えをまとめるのが苦手」「時間がかかる」「面倒くさい」などの理由によるものであるが、想いを表現したり、行動することに重きを置いている科目であるだけに、こうした苦手意識を払しょくできるように一層工夫をして指導していかなければならない。

2015年度は、石森(2014)で開発されたグローバル教育のアセスメント指標に基づいてアンケートを作成し、授業開始当初の4月と授業終了の1月末の2度実施し、1年間の授業を通しての自己の変容を自己評価してもらった(表5)。4月の段階では、コミュニケーション(11~13)、自己理解(21~23)、多様性の尊重(24~26)などの項目で評価が高く、一方で知識面(1~3)が弱いという、いわゆる総合学科の生徒らしい結果であった。1年間の学習を通して、地球的課題に対する理解(1~4)や相互依存関係にある世界の実情(8~10)、そして地球市民としての自覚・行動への意欲(27~30)の項目で大幅な上昇が見られた。特に1年間の授業で強調してきた世界と私たちは相互依存関係にあることや地球市民としての行動への意欲の項目で有意に上昇がみられたので一定の成果があつたものと考えたい。本アンケートでは量的な調査に留めてしまったので、具体的な質的な変容については追いついていない。文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)にふさわしい国際科目のあり方について、引き続き開発と実践に取り組んでいきたい。

#### 【参考・引用文献】

- 石森広美(2014). グローバル教育の授業設計とアセスメント. 学事出版, p.328.
- 工藤泰三、塗田佳枝(2013). 科目「国際社会」の開発: 国際的視野を持った生徒の育成を目指して、「研究紀要」第50集, pp.79-96. 筑波大学附属坂戸高等学校.
- 工藤泰三(2014). 科目「Discussion & Debate」の開発: 国際化社会で生きる「話し合う力」の育成を目指して、「研究紀要」第51集, pp.80-89. 筑波大学附属坂戸高等学校.
- 今野良祐(2012). 「地理A」におけるESD実践報告: 新科目「Global Studies」を見据えて、筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要49, pp.93-102.
- 今野良祐(2013): 討論で深める地理授業実践: ESDの視点を手がかりとして(特集 第31回大会シンポジウム 中等社会科(地理歴史科・公民科)授業で『討論』をどう成立させるか)、中等社会科教育研究32, pp.17-28.

表4 Global Studies 学年末アンケート集計結果 (左: 2013年度、右: 2014年度)

13 Global Studies 学年末アンケート 集計結果

1 1~3学期間に取り組んだ以下の授業内容について、あてはまるものを○して下さい。

4: とてもよい 3: よい 2: よくない 1: 無理

主題	4	3	2	1
1 ガイダンス、国際問題の諸側面とキーワード				
2 「世界一大きな授業」				
3 「貿易ゲーム」から考える南北問題				
4 「世界がもし100人の村だったら」から考える世界の状況				
5 世界を正しく理解・表現する? (地球儀作成、ピーターズマップ)				
6 統計地図から貧困の地域差を語る (統計データの地図化)				
7 少年ルイスの物語から考える貧困と開発 (開発ランキング)				
8 よりよい社会づくりのための「開発」を考える (開発イノベーション)				
9 MDGs 達成状況、貧困 (力の削減) の構造と開発のあり方を考える				
10 ユニクロ出張授業: 「届けよう! 服のチカラ」プロジェクト				
11 服のチカラプロジェクト作戦会議、1学期のまとめ				
12 1学期末考査: JICA・拓大作文コンテスト				
13 「服のチカラ」プロジェクト 回収衣料仕分け・発送作業				
14 持続可能な社会づくりを阻害している要因を考える (発表準備)				
15 持続可能な社会づくりのために高校生にできること (発表準備)				
16 開発援助課題コンテスト				
17 【院生授業】貧困の悪循環と地域性				
18 [ESDシンポジウム]持続可能な社会づくりのために高校生にできること				
19 Stand Up Take Action!				
20 エネルギー問題を考える: よりよい発電ランキング				
21 よりよい発電方法を考える: 3Dディベート				
22 バーム油: 地球にやさしいって何だろう?				
23 2学期末考査: ふりかえりレポート/究極の機内食を考える				
24 「ひょうたん島問題」から考える多文化共生				
25 世界の環境問題を写真から考えてみよう				
26 日本人のコンモンズ「お米」を考える				
27 「さぬきうどん」から考える地域と世界				
28 3学期末考査: 私と世界				

・肯定回答上位: 3貿易ゲーム(3.7)、10ユニクロ授業(3.5)、4世界がもし100人の村 (3.5)  
 ・否定回答上位: 12JICA・拓大作文(2.5)、19Stand Up Take Action!(2.6)、15シンポ準備(2.7)

14 Global Studies 学年末アンケート 集計結果

1 1~3学期間に取り組んだ以下の授業内容について、あてはまるものを○して下さい。

4: とてもよい 3: よい 2: よくない 1: 無理

主題	4	1
1 Global Citizen Basket, GS ガイダンス、アジアってどこ?		
2 「世界一大きな授業 2014」		
3 世界を正しく理解・表現する? (地球儀作成、ピーターズマップ)		
4 統計地図から貧困の地域差を語る (統計データの地図化)		
5 「世界がもし100人の村だったら」から考える世界の現状		
6 「貿易ゲーム」から考える南北問題		
7 少年ルイスの物語から考える貧困と開発 (開発ランキング)		
8 よりよい「開発」を考えるディスカッション (開発イノベーション)		
9 高校生だからできる、新しい国際貢献のデザイン (a.school)		
10 服のチカラプロジェクト作戦会議、1学期のまとめ		
11 ユニクロ出張授業: 「届けよう! 服のチカラ」プロジェクト		
12 1学期末考査: 「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」		
13 「服のチカラ」P 回収衣料仕分け・発送作業		
14 グローバル人材について		
15 Stand Up Take Action!		
16 「さぬきうどん」から考える地域と世界		
17 日本人のコンモンズ「お米」を考える		
18 食環境の持続可能性を阻害している要因を考える (発表準備)		
19 持続可能な社会づくりのために高校生にできること (発表準備)		
20 ESD シンポジウム 海外ゲストとディスカッション (英語発表)		
21 ESD シンポジウム ディスカッションふりかえり (日本語)		
22 2学期末考査: ふりかえりレポート/究極の機内食を考える		
23 「ヒジャブ」から考える多文化共生・寛容		
24 「ひょうたん島問題」から考える多文化共生		
25 共有財産の危機、私と世界のつながりを考える		
26 「貿易ゲーム」リベンジ! みんなが幸せになる社会を		

・肯定回答上位: 貿易ゲーム(3.9)、世界がもし100人の村 (3.7)、ヒジャブ&ひょうたん島 (3.6)  
 ・否定回答上位: JICA・拓大作文(2.9)、地球儀作成&ピーターズマップ (3.0)、シンポ準備(3.1)

表5 Global Studies 受講生におけるグローバル人材度自己評価 (4月と1月の変容)

グローバル人材度調査結果

とてもあてはまる「5」、そう思う「4」、中間レベル「3」、あまりそう思わない「2」、そう思わない

3年次一般選択科目「Global Studies」生徒による自己評価の前後変容

カテゴリー(Category)	目標(Desired Outcomes of Global Studies)	4月20日実施	1月25日実施
知識・理解	地球的問題 (Global issues)		
	多様性・多文化社会 (Diversity / Multicultural Society)		
	グローバル社会・相互依存 (Global connections / Interdependence)		
	批判的思考・問題解決 (Critical thinking / Problem-solving)		
技能・スキル	コミュニケーション・協働 (Communication / Collaboration)		
	情報収集・活用 (Information literacy / Collect or use information)		
	自己理解・自己認識 (Self-esteem / Self-awareness)		
	異文化や多様性の尊重・寛容 (Respect for diversity / Cross-cultural tolerance)		
態度・姿勢・価値観	地球市民としての自覚と責任、行動への意識 (Taking informed and responsible action)		

アンケート項目は石森 (2014) の分析指標を用いて作成した。